

令和4年3月(2022年) No.675

大阪市立中央図書館との共催映像発表会 せっかくの入場希望者の落選通知の痛み

会長 合原一夫

この3月27日(日曜日)には、日本を縦断する映像発表会の40回目の映写会が、大阪市立中央図書館大講堂で行われる。この会場は通常であれば定員300名で、いつも220名位の入場者で、まずまずの盛会であった。ところが、例のコロナ禍の為に、一昨年は中止、昨年は入場制限で90名に、さらに今年は80名に抑えられてしまった。この発表会は、大阪市立中央図書館との共催事業であるために、会場の使用条件等の主導権は図書館側にあり、日本アマチュア映像作家連盟としては、それに従わざるを得ない。

そこで今回も、入場希望者は申し込み制で、定員80名を超えた場合は抽選して当落を決める必要があった。このことで大変な手間と経費と準備期間を要することになった。先着制にするのが一番手取り早いですが、遅れてきた人は入場できずにお帰り願うことになる。最も収容人数に余裕があるので、多少の事は融通を聞かせて入ってもらっても良いとは思っているのだが、そこは「お役所」である。決められたことはきちんと守れ、という事である。実際は当選ハガキを受け取った人も当日、調子が悪い、急用ができた等の理由で来ない方が数名は出てくるのが昨年の例だ。だからその分を見越して多めに当選ハガキを発行したら、とも思ったが、それも許されなかった。結局、映像仲間の人には「スタッフ証」を渡し、お手伝いの一方、席が空いていたら中に入れてもらうことにして解決したが、さて今年、うまくいくか。それにしても落選通知を出さざるを得なかった方々には大変申し訳ない。

3月例会のお知らせ

- 第2例会 3月17日(第3木曜日) 13時より 難波市民学習センター
- 通常例会 3月26日(第4土曜日) 18時より、例会を楽しみましょう

日本を縦断する映像発表会

3月27日(日) 大阪市立中央図書館にて開催

お手伝いを兼ねたスタッフ証をお持ちの方は、11時半までに会場にお越し下さい。

入場者の体温測定、参加証の確認のお手伝いをお願いします。

第40回 日本を縦断する映像発表会 上映プログラム	
第1部	第2部
1. 熊野古道幻想 岡本至弘 14分30秒	1. 竣工式 宮崎紀代子 8分00秒
2. 久しぶりの通天閣 中川良三 11分43秒	2. 竣工式 宮崎紀代子 8分00秒
3. 熊野古道幻想 岡本至弘 14分30秒	3. 竣工式 宮崎紀代子 8分00秒
4. 竣工式 宮崎紀代子 8分00秒	4. 竣工式 宮崎紀代子 8分00秒
5. 竣工式 宮崎紀代子 8分00秒	5. 竣工式 宮崎紀代子 8分00秒
6. 竣工式 宮崎紀代子 8分00秒	6. 竣工式 宮崎紀代子 8分00秒
7. 竣工式 宮崎紀代子 8分00秒	7. 竣工式 宮崎紀代子 8分00秒
8. 竣工式 宮崎紀代子 8分00秒	8. 竣工式 宮崎紀代子 8分00秒
9. 竣工式 宮崎紀代子 8分00秒	9. 竣工式 宮崎紀代子 8分00秒
10. 竣工式 宮崎紀代子 8分00秒	10. 竣工式 宮崎紀代子 8分00秒

2月例会レポート

オミクロン株の蔓延はまだ収まりませんが、会員の皆様、ほとんどの方が第3回目のワクチン接種を終えられたようで、まずは一安心。コロナ禍の中、今日も14名の会員諸氏が集まり、10本の作品で充実した例会となった。やはり、人が集まる、という事がまずは楽しいものである。

- 運営担当：司会 合原、書記 紙本、YouTube 関係 進藤、映写 中川、メモリー記録 江村、受付・照明 森下、宮崎の各氏
- 出席者：岩井、江村、岡本、上総、紙本、合原、進藤、高瀬、坪井、中川、野田、宮崎、森下、山本の14氏

上映作品 (今月の書記は紙本氏)

1. 熊野古道幻想

岡本至弘 14分30秒

<作者コメント>

1999年6月5日～6日に行われたOMCの撮影会作品です。私の発案で、本会の関会員による脚本、構成、演出による企画で、わたしの故郷を舞台にした「南紀熊野体験博」が行われていたものに便乗したものでした。平安衣装の若い女性を使った本格的なドラマ撮影会でした。関会員の熱心な、手際良い監督、演出ぶりに魅せられ、撮影に熱が入ったことを思い出します。いつか、またこんな撮影会をやりたいとの思いを新たにしました。



<書記コメント>

ドラマの撮影会作品ということでなかなか見応えがあります。作者も大いに関係された様ですが、脚本から演出、出演者の演技までは与えられたものですが、撮影と編集は作者の技量の見せ所で、撮影の場所取りをはじめ苦勞されたことでしょうか、作品は総合的に鑑賞されるわけで、秀作に思われます。

2. 竣工式

(新型コロナウイルス感染拡大の中で)

宮崎紀代子 8分00秒

<作者コメント>

昨年10月、私の町では60年振りに集会所が新しく建て替えられた。コロナ感染拡大緊急事態宣言第5波が解除になり、竣工式が行われた。



<書記コメント>

作者がお住いの地区の集会所と地車庫が新築され竣工式が行われたというお目出度いお話です、だんじりも新装されたので街中を曳行され、ワクチン接種風景、続いて新築の集会所が紹介され式典に移ります。喜びと経過報告、地車庫の新設もあり20年前のだんじり祭りが挿入されたり、町会の皆さんが良かったという雰囲気の商品でした。

3. 久しぶりの通天閣

中川良三 11分43秒

<作者コメント>

コロナで外出を控えていたが、令和3年12月になって第5波も少し落ち着いたところで、気分転換に天王寺に出てきた。「テンシバ公園」を歩いていると、公園の先に通天閣が見えたので、昔登ったきりで今はどのようになっているのか興味が出てきたので、行ってみることにした。



<書記コメント>

テンシバを通り抜ける所から始まる特殊カメラによる作品。ずっと俯瞰気味で歩きながらの撮影は滑らかに進みますが、アップになるとカメラの特性でしょうか映像の一部分に歪が現れますちょっと目障りですが、通天閣に至り内部も完全に撮影されています。展望は超広角、全般に中々面白いのですが、功罪ありで、全編に使うのはどうかとも思うのですが、ではどうするかとなると難しい話で、これはこれで変わっていて良いのだと思います。

4. ぶらり天保山あたり

合原一夫 9分30秒

<作者コメント>

新聞記事を見ていて、大阪市内には、今もなお、渡し船があることを知り、天保山あたりに出掛けていった。なるほど、大きな橋があるのに、近くの人々は、渡し船を利用して、通勤、通学、買い物などに使っている。道路の扱いなので無料だという。一方橋にも歩道があるが高い位置にあるので、自転車も人も、橋の上まで上がるのがきつく、ほとんど使われていないようだ。天保山には大きな観覧車があり、それに乗ると見晴らしが良い。海遊館が近くに見える。広場には大道芸人が芸を披露し、人を集めていた。天保山あたりは一日散策で楽しめるスポットであった。

2004年(平成16年)作。

<書記コメント>

18年前の作品とか。天保山の渡船場から始まり渡船風景があり、日本で一番に低い天保山とマイメイド像が続く。広場では大道芸人の技に観客の拍手。大観覧車から港湾の眺めは抜群、サンタマリア号が絵になる。作者は天保山渡船に何らかの郷愁のようなものを覚えられたように見受けました。



5. 朱鷺のふるさと

進藤信男 19分00秒

<作者コメント>

2021年5月 佐渡島新穂(にいほ) 生椿(はえつばき)の「高野毅」さんが、野生生物保護功労者として環境大臣表彰された。2008年、はじめて朱鷺の自然界復帰へ向けた放鳥が行われたとき、突然の往訪にもかかわらず撮影に協力いただいた。この時は、豊中に実家があるという新聞記者と出会いテレビの取材と合わせて高野さんを紹介いただいた。生椿では、何名かの地元の方が親しく接してくれるなど嬉しい出会いがあった。高野さんとは、以来定期便の簡単な文通があるが、この大臣表彰の件については大阪でも新聞報道があったので記事を送った。現地の情報は、SNS ネットワーク情報として刻々と伝えられるが、延び延びになっていた再往訪・往島はコロナの状況が見通せれば早い機会に実現したい。佐渡は、関西・西日本とは北前船などを通して交流が多かった独特の文化がある。



<書記コメント>

朱鷺の育ての親ともいえる人に会い、朱鷺が繁殖してゆく姿を追っておられます。高度成長で絶滅(絶滅前の老婦人の話)昭和42年保護・繁殖を開始して雛が誕生、餌場づくりが行われる。全般の世話をする高野氏の話が続きその苦勞で自然環境の再生も実現、平成20年秋篠宮夫妻も臨席で試験放鳥され10羽が大空高く舞う。朱鷺の故郷にとっては感動の時に違いない。それにしても佐渡まで何回も足を運ぶのは大変なことだっただろうと思われまじ、大作に感心しました。

6. 奈良・般若坂

江村一郎 7分50秒

<作者コメント>

般若坂と聞くと思い出されるのが宮本武蔵の「般若坂の決闘」、奈良から京都へ抜ける奈良坂のひとつで、坂の途中には夕日地蔵や北山十八間戸(鎌倉時代のハンセン病患者救済施設)やレンガ造りの監獄跡(将来は資料館とホテルの計画あり)などがある。さらに上がると坂の名称ともなった般若寺へ。寺の創建は天平7年(735)聖武天皇の時、平城京の鬼門鎮護のため堂塔を造営されたと伝えられています。近くの奈良豆比古神社では秋祭りの翁舞があるがコロナのために公開はされないで代わりに昔の8ミリ映像を挿入しました。

<書記コメント>



宮本武蔵の映画の決闘場面、何もなかった様ですが、わずか1.2kmの般若坂には歴史的建造物跡などがあることがわかります。中でもコスモス寺の名で親しまれている般若寺では、10万本の花の盛りで見事、寺とよく似あいます。寺は平重衡の南都焼き討ちで焼失した時代があるとか。豆比古神社の秋祭りの翁舞は8ミリ映像を挿入とありますが、貴重な祭りを昔に取材されていた事に感心と敬意を表します。

7. 名もなき池

紙本 勝 5分20秒

<作者コメント>

岐阜県関市板取に小さな池があります。灌漑用に作られた池で、地図上では名もありません。ところが近年、フランスの画家クロード・モネの絵画「睡蓮」にそっくりなことから「モネの池」と呼ばれるようになり、観光バスも立ちよるほどの人気で、透明な水に鯉が泳ぎ幻想的です。



8. 岩田山のお猿さん

高瀬辰雄 10分00秒

<作者コメント>

6年ほど前に一度、映写しましたが、前作は主に夏と秋に撮影し、制作した作品に新たに冬と春を加え、編集し直したものです。京都・嵐山の渡月橋の背後にある岩田山には野生のニホンザルが、約120頭生息しています。いろいろな表情を見せる猿の面白さにひかれ、作ってみました。



<書記コメント>

岩田山のお猿さんの生活ぶりが詳しく、面白く撮られています。餌を貰うに一生懸命で、その仕草表情なども、お猿さんが仲間かと思うくらいしっかり撮影され、加えて冬の雪中の寒そうな場面が生きています（撮影はもっと寒かったかも）ここのお猿さんは行儀が良いのか観光地のお客さんを困らせることも余り無いようです。とにかく生態がつつさに撮られていて貴重な作品と思われます。

9. 改築工事～道具と工法～

上総秀隆 9分59秒

<作者コメント>

鉄筋コンクリート造りの家の改築工事には、色々な道具が使われている。工法も52年前とはかなり変わってきている。わが家の改築は、建築素人の私には物珍しい風景があった。

<書記コメント>

昔の大工にとっては、斧・手鋸が主であったが、現在は電動工具が主流で、工期も早くなる様です電動工具といっても色々あるようで、作者は吊り天井など現場について詳細に撮影されているのでおおいに勉強になりました。



10. ぶり街道

山本正夢 8分30秒

<作者コメント>

インターネットで鰯街道があると知り、早速行って来ました。距離が長く雪道で苦労した割に映像が少ないです。

<書記コメント>

富山から高山まで90km、凡そ3日の工程が「越中ぶり」さらに野麦峠を越え松本までが「飛騨ぶり」と呼ばれたとか。鰯はお歳暮や正月には欠かせない魚の様です。雪の富山湾、そして富山城、飛騨の里の雪景色、吉真家の内部、そして珍しい雪の高山陣屋と街並み、さらに、うだつの美濃町と存分に撮影されています。雪の中の長い車道、それは大変な苦労だったことを想像します。

